

にきび

にきびは主として、思春期に、だれにでもよくでき、たかが、にきびと思われがちですが、顔にできやすいため、美容上の問題もあり、本人の悩みは予想以上です。

今回は、外来でよく質問される、にきびについての疑問点についてお答えします。

質問:にきびは思春期だけにできるのですか？

回答:人生で3回、にきびができやすい時期があります。それは、生後1ヶ月前後、思春期、3回目は30歳前後です。生後1ヶ月目のにきびは、お母さんが心配してよく外来に赤ちゃんを連れて来られますが、心配ありません。一時的なもので塗り薬ですぐ治ります。思春期、及び、30歳前後のにきびは、放置すると症状が続くので、適切な治療が必要です。

質問:にきびの原因は？

回答:アクネ菌という、にきびをおこす細菌が関係しています。思春期では、皮脂腺が発達し、アクネ菌が増えやすい状況であるために好発するのです。

質問:にきびになりやすい肌質は？

回答:ドライスキン、オイリースキンのうち、おでこや、鼻がテカテカするオイリースキンの方がにきびになりやすく、アトピー性皮膚炎ではドライスキンとなります。30代のにきびの方は、顔はカサカサなのに、にきびができるドライオイリーである場合もあります。

質問:思春期のにきびと思春期以降のにきびのちがいは？

回答:思春期のにきびは、毛穴が詰まりアクネ菌が増殖して生じる、通常型のにきびで、肌質はオイリースキンの方が多ようです。思春期以降のにきびは、一見ドライスキンでにきびができにくいようでも、敏感肌で、風にあたるだけでも肌が荒れるような方に生じやすいようです。

質問:にきびの治療は？

回答:甘い物や油物はとりすぎないようにしましょう。睡眠不足や、イライラもお肌に影響します。直接的な原因としてはアクネ菌が関与していますので、アクネ菌に対する塗り薬や飲み薬で治療します。それでもよくならない時はケミカルピーリングという治療を行うこともあります。

文責(森田秀樹)